

～いま、わたしたちにできること～
**アロマテラピーボランティア
活動報告**



第1部

AEAJ東日本大震災
復興支援プロジェクト

第2部

身近なアロマテラピー
ボランティア

発行にあたって

東日本大震災は東北地方を中心
あまりにも甚大な被害をもたらしました。

私たち AE AJは復興支援プロジェクトを立ち上げ
被災された方々にアロマテラピーで
少しでも寄り添うことができないかと考え
被災地でのボランティア活動を続けてまいりました。

Contents

発行にあたって 2

第1部

AE AJ 東日本大震災復興支援プロジェクト 4

アロマテラピー ボランティア 活動メニュー

ハンドトリートメント 8

香りのクラフト 10

復興支援アロマテラピー ボランティア活動

今までとこれから 14

被災地でのボランティア 10 の心得 15

第2部

身近なアロマテラピー ボランティア 16

AE AJ会員によるアロマテラピー ボランティア活動

高齢者施設 18

子育て支援 20

障がい者施設、デイサービス 21

森のアロマ 22

ホスピス 23

AE AJボランティア 支援部会について 24

人と、香りと、環境と—AE AJについて— 26

活動を通して、災害時に活動する際も基本的な心得は
日常の活動と同じであるということを改めて感じております。

このたび『アロマテラピー ボランティア活動報告』を発行するにあたり
第1部は「AE AJ 東日本大震災復興支援プロジェクト」についてご報告し
第2部では、会員の皆さまが日ごろ地域で行っている
ボランティア活動についてご紹介いたします。

より多くの方がボランティア活動について
いま一度、考えていただくなきっかけとなれば幸いです。

2012年9月1日
公益社団法人 日本アロマ環境協会
理事長 宇田川 僚一

A E A J 東日本大震災復興支援プロジェクト

東日本大震災によって被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

A E A Jは2011年3月、

「A E A J東日本大震災復興支援プロジェクト」を立ち上げました。義援金の募金活動に加え、

アロマテラピーを通してできることは何か』を考え、会員の皆さんとともにボランティア活動を行つてまいりました。また、個人でボランティア活動をされている会員の皆さんを支援するための制度も新たに設けました。

アロマテラピーを通して復興支援に関わるということは、どのようなことでしょうか。

それは被災された方々に、少しでも

ほつとできる時間を提供させていただいたり、

コミュニケーション作りのきっかけとしていただくこと。



【主な活動メニュー】

香りの折り紙



ルームスプレー



香りのうちわ



ハンドトリートメント



今なお過酷な状況の中で奮闘されている
お一人おひとりに心を寄せ、
復旧や支援活動に尽力されている
あらゆる方々に心から敬意を表し、
これまでの「A E A J東日本大震災復興支援プロジェクト」の
活動を報告いたします。

つまり被災された方々がご自身の力で復興されていくための
支援と応援をしていくことが私たちのめざすところです。
私たちは医療従事者ではありませんので心のケアはできません。
しかし、精油があれば深呼吸できる空間ができます。
ハンドトリートメントをしながら会話をしたり、
一緒にクラフトを作していくうちに、
気持ちがつながっていくを感じます。

辛い思いをされている方に心をかよわせて向き合った時、
精油はコミュニケーションツールとして
役立つのです。

● AEAJ 主催の復興支援アロマテラピーボランティア活動

活動メニュー ハンドトリートメント、香りの折り紙、ルームスプレー、
香りのうちわ作り（夏期のみ）、ハーブティーの提供など

アロマテラピーボランティア活動 計 9 回、43 カ所、参加会員数計 210 名

- ① 2011年6月3日（金）～5日（日）宮城県内、福島県内避難所5カ所
宮城県（大崎市、石巻市、亘理町）、福島県（福島市、郡山市）
- ② 2011年7月17日（日）～18日（月・祝）宮城県内（石巻市、山元町）避難所6カ所
- ③ 2011年8月20日（土）～21日（日）宮城県内（名取市、七ヶ浜町）仮設住宅6カ所
- ④ 2011年9月17日（土）～18日（日）宮城県内（東松島市）仮設住宅6カ所
- ⑤ 2011年10月8日（土）～9日（日）宮城県内（東松島市）仮設住宅6カ所
- ⑥ 2011年11月4日（金）～5日（土）岩手県釜石市内小学校でのイベント参加
「HOPE for Mothers cafe @釜石」（主催：国際協力NGOジョイセフ）



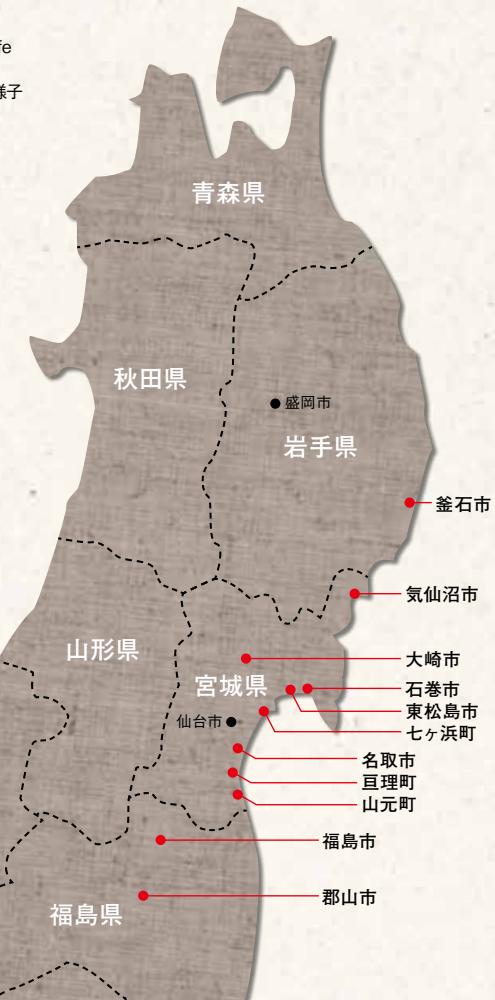
【ボランティア活動実施地区】

HOPE for
Mothers cafe
でのアロマ
コーナーの様子

- ⑦ 2011年12月3日（土）～4日（日）
宮城県内（気仙沼市）仮設住宅5カ所
- ⑧ 2012年2月18日（土）～19日（日）
宮城県内（東松島市）仮設住宅4カ所
- ⑨ 2012年3月17日（土）～18日（日）
宮城県内（名取市、七ヶ浜町）仮設住宅4カ所



『大崎タイムス』2011年6月11日（土）発行
『石巻かほく』2011年9月25日（日）発行
『河北新報』2012年1月1日（日）発行



2011年3月 AEAJ東日本大震災復興支援プロジェクト発足

● 義援金募金活動の実施と寄付先

2011年3月31日 日本赤十字社 10,000,000円（協会拠出義援金）

2011年7月8日 日本赤十字社 2,886,851円（募金）

2011年9月22日 日本赤十字社 88,132円（募金）

2012年2月23日 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 162,413円（募金）

● チャリティーイベント実施

開催日 2011年5月21日（土）、5月28日（土）

場所 地球環境パートナーシッププラザ
(東京都渋谷区：国連大学1階)

募金額 計 80,841円

約20名の AEAJ認定アロマセラピストの協力のもと、ハンドトリートメントを受けていただいた方にお気持ちとしてワンコイン（500円）を義援金募金箱に入れていただきました。



国連大学でのチャリティーイベント

● 会員による復興支援アロマテラピーボランティア活動 支援制度の実績：30 件

（2012年3月31日現在）※2012年度も支援制度を継続しております。

被災された方々を対象にボランティア活動を行う会員に精油、植物油など材料費の支援を行いました。

● 香りの支援物資

2011年7月～9月、「香りのうちわ」を1万本作製し、各地の避難所や仮設住宅、復興夏祭りの会場などで配布しました。精油3本（ラベンダー、ペパーミント、オレンジ・スイート）と注意書きを同封しました。※精油はAEAJの法人正会員各社にご協力いただきました。



香りのうちわを配布

● 2011年度個人正会員年会費免除

年会費免除実数：947名（被災された個人正会員）

ハンドトリートメント

アロマテラピーボランティア 活動メニュー

芳香浴とともに、ホホバ油を使ったやさしいタッチのトリートメントを避難所や仮設住宅の集会施設などで行つてきました。

まだ津波の被害が生々しく残る暑い夏の盛り、ハエや蚊が飛び交う避難所の教室でも精油の香りが爽やかな清涼感を与え、さらに虫除けにもなりました。寒い冬には冷たくなった手にぬくもりを届けました。



活動の様子と参加会員の声

「仮設住宅に越して来て周りは知らない人たちばかりで話し相手がいなかった。お話できてよかったです」と言われたときには胸がつまりました。
(川戸 千帆子さん・宮城県)



タッピングや「寄り添う気持ち」の大切さを改めて感じました。
(米田 敦子さん・静岡県)



肌に触れているうちにお互いに体温が上がって肌も気持ちもフィットしていく心地よさを感じます。私自身もたくさんの元気をいただきました。
(千葉 ひろみさん・神奈川県)

episode

炊き出しボランティアをされていた若い女性は、手に触れた瞬間、張りつめていた気持ちが緩んだのか、大きな涙をポロポロとこぼされました。被災された方のために、とがんばり過ぎている様子でした。支援する側にも表には出せない辛い気持ちがあるのだと感じました。

(AEAJボランティア支援部会)

ハンドトリートメントの注意点

● 健康状態

被災された方々は、栄養や睡眠が十分でない場合もあります。トリートメントは、皮膚の反応に十分注意し、圧も通常より弱めに行います。

● 簡易パッチテスト

トリートメントを行う前には10~15分程度でも、前腕内側にトリートメントオイルのパッチテストをします。植物油のみの場合も同様です。

● 衛生

トリートメント前後は必ず手指をアルコールで消毒します。



ハンドトリートメントの手順

● 施術前

- ①挨拶 例「○○から來ました□□です。よろしくお願ひいたします」
- ②パッチテストの結果を確認。再度口頭でもアレルギーがないか確認する
- ③アクセサリー、時計をはずしていただく
- ④手指の消毒

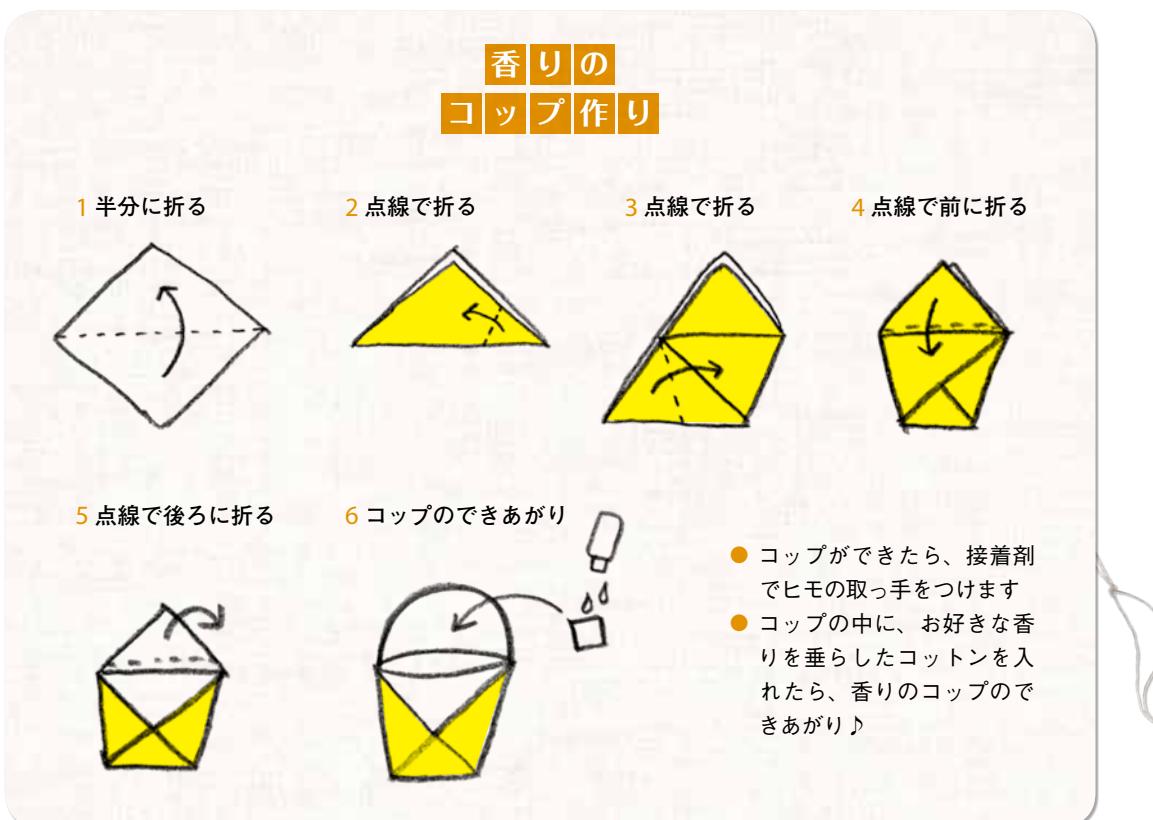
● 施術 (基本はAEAJ公式サイト参照)

- ①トリートメントオイルを手で温める
- ②トリートメントオイルを塗る
- ③片手を軽く揺らして力を抜いていただく
- ④トリートメントを10分程度行う
※ときどき声をかけて、圧のかけ方など、心地よい状態かを確認
- ⑤軽くオイルを拭き取る
- ⑥終了をお知らせする

● 終了後

水分を取っていただくようアドバイスし、忘れ物がないように声掛けする

香りのクラフト



避難所や仮設住宅の集会所では、お子さまから年配の方まで楽しんでいただけるように、身近で簡単な材料を使ったクラフト作りを行いました。好きな香りを選んだり、「自分で創作する」という喜びも感じていただけたようです。その場だけでなく、持ち帰っても香りを楽しめるように工夫しました。



和紙と竹でできたうちわで、好きな香りの心地よい風を送りました。子どもたちは楽しそうに、うちわにフェルトの飾りを貼って、精油の香りをつけました。うちわの裏が白紙だったので、格好のキャンバスだったようです。



香りのクラフト

活動の様子と参加会員の声

訪問先の方とは初めてお会いするのですが
香りのクラフトやハンドトリートメントを通して
いろいろとお話ししてくださる方多く
アロマテラピーの持つ和みの力を実感しました。
(宮城県の会員)



折り紙を選んだり、フェルトの飾りをつけてみたり
気に入った香りを見つけたり。
簡単なことが大切なだと気づきました。
お孫さんの分、お友達の分など2個、3個と
作る方がいらして嬉しかったです。
(保谷 裕子さん・埼玉県)

ハーブティーを飲んだり香りを嗅いだり
しながら、ご友人とお話をされていて
リラックスした時間をお過ごしのようでした。
飲む、嗅ぐ、触れるなど
五感へ心地よい刺激を与えられることが
他のボランティアにはない
アロマテラピーボランティアの特徴であり
意義だと思います。
(本多 純美さん・千葉県)



episode

震災後、言葉で意思表示をすることがなかった4歳ぐらいの女の子は、
香りの折り紙作りに何度も来てくれ、お祖母さんを驚かせていました。
最後に一人で来て、楽しそうに折り紙にシールを貼り、小さな声で「あ
りがとう」と初めて気持ちを伝えてくれました。

(AEAJ ボランティア支援部会)

ハーブで リフレッシュ

フレッシュハーブ

活動の際には、毎回フレッシュハーブを持参しました。精油の元になる植物に触れ、香りを嗅ぐことによって、自然と会話が弾みました。ハーブを育てたいという方多く、名前や育て方をメモされるなど、とても熱心な様子でした。



ハーブティー

トリートメントやクラフト作りを終えた方に、ローズヒップ＆ハイビスカスや
カモミール・ジャーマンなどのハーブ
ティーを楽しんでいただきました。提供
する際は、やけどしないように少し冷ま
してからお出しするようにしました。



できあがったスプレーをお互いに嗅ぎ合うことで
被災された方と
サポートしている側が
お互いに寄り添えるこの活動を
ぜひ続けていきたい
いかねばならないと思いました。
(湯蓋 典子さん・宮城県)

今までとこれから

A E A J ボランティア支援部会は、新潟県中越地震、能登半島地震の際にはA E A J 会員とともに現地でボランティア活動を行いました。部会のメンバーは普段から地域でアロマテラピーボランティア活動を行っていたため、災害時でもその経験を活かすことができました。東日本大震災後もすぐに情報を集めて準備をし、活動の時期を見定めて動けたのも、これまでに積み重ねた経験があつたからだと思います。私たちは、日ごろのボランティア活動がいかに大切であるかを改めて感じています。

今回、ボランティアに仮登録をされた会員は600名（2012年3月31日現在）を超えて、毎回20名前後の方が被災地でのボランティア活動に参加されました。

2011年度の9回すべての活動を、事故やケガもなく無事に行うことができたのは、参加してくださった会員の皆さまの「思い」と、温かく受け入れてくださった皆さまのおかげだと心から感謝しています。

復興まではまだまだ時間がかかり、息の長いボランティア活動が必要とされています。私たちはこの活動を通して薛かれたボランティアの種が、あちこちに芽吹き花咲くことを願っています。現地会員の皆さまが定期的に、あるいは長期にわたり、被災された方々を支援されること。また、全国の皆さまが今回のボランティア活動やこの冊子をきっかけにして、「自分の身近なところでボランティアを始められたらどんなに素晴らしいでしょう。」「香りで何ができるのか、何が求められているのか」、変化する復興支援ボランティアの方向性を考え、継続していくことが今後も重要なだと考えています。

（A E A J ボランティア支援部会）

2. 対等な関係

3. 態度

1. 自己完結

必要なものは必ず自分で準備します。ゴミもすべて持ち帰ります。事前に社会福祉協議会などでボランティア保険（災害型）に必ず加入しましょう。

4. 服装

肌の露出が多い服装はボランティアにふさわしくありません。チームで活動する場合は、統一感のある服装がよいでしょう。靴は動きやすいものを着用します。

6. 会話

自然体であることが一番です。明るくはっきりと受け答えするようにします。こちらから震災の話題には触れないように。もし自分がお話をされたら、途中でさえぎらず「聴く」ことに徹します。

8.撮影

被災地での写真撮影は原則禁止です。撮影する場合は、必ず了解を得てからにします。

被災地でのボランティア 10の心得

5. 挨拶

ボランティアの行為に急ぐあまりに、自分の名前をお伝えし忘れる方も。相手の方にとって、誰かわからない人とはコミュニケーションを取りにくいものです。「○○から来た□□です」とはっきり名乗りましょう。

7. 精油

香りが嫌いな方がいらっしゃることも考慮し、精油は控えめに使います。換気にも気を使いましょう。

9. 「心のケア」について

「心のケア」という言葉は控えてください。私たちは「心のケア」の専門家ではありません。もし、心身の不調を訴えられた場合は、医療機関や専門家に相談するように伝えましょう。

10. 休養と衛生

自身の健康に注意し、がんばり過ぎないようにしましょう。少しでも体調が悪い時には活動を休みます。帰宅したら身近な人と話し合い、十分に休養を取ることが大事です。

心得に基づいて私たちが行ったこと

- 活動中は自分たちの靴が邪魔にならないように持参のビニール袋に入れて荷物と一緒にまとめておきました。
- 活動する場合、少なからずお手洗いはお借りすることになります。お礼の言葉を添え、トイレットペーパーを置かせていただきました。
- 住所（～県～市）と氏名を書いた名札を胸につけました。自己紹介の際、会話のきっかけにもなりました。



身近なアロマテラピーボランティア

ボランティアを始めたい方のために

● どのように活動を始めたらいよいのか

興味はあるけれど何から始めていいのかわからないという方はまず地域で実施されているボランティア体験講座や入門セミナーを受けてみてはいかがでしょうか。

- 地域のボランティアセンターもしくは社会福祉協議会に相談に行く
 - ボランティアセンターに登録をする
 - 興味のある施設や団体に直接連絡をする
 - アロマテラピー以外のボランティアに参加してみる
-



● アロマテラピーを施設などに理解してもらうには

アロマテラピーをご存じない方に対しては、まず、アロマテラピーを体験してもらうことから始めてはいかがでしょうか。精油を使い、スプレーと一緒に作って楽しんでもらうハンドトリートメントを体験してもらう、などです。活動の状況を考慮して、具体的に自分ができることや、やりたいことを先方に提案してみましょう。施設での活動を希望される場合は、スタッフの方を対象に始めるのもよいでしょう。

.....

● アロマテラピーボランティアを安全に行うために

社会的常識、アロマテラピーに対する知識や資格があることのほか以下のボランティアの心得や注意を守りましょう。

- 無理なく続けられる活動にする
- 相手や関係者の立場を尊重する
- 施設との事前打ち合わせを十分に行う
- ボランティア保険に加入する
- 安全と衛生、服装に配慮する
- 約束は必ず守る
- プライバシー（個人情報）を守る
- 薬事法などの関連法規を守る



アロマテラピーボランティアは、さまざまな場所で多彩な活動メニューが考えられます。例えば、高齢者施設や福祉施設で行うアロマテラピートリートメント、地域の集会所などで香りの楽しみ方をお伝えする講習会なども意義のあるボランティア活動といえます。第2部では、ご自身の地域でボランティアを始めたいと考えている方のために、始め方や行うにあたっての注意事項などをお伝えします。また、会員の方々の活動をご紹介いたします。



A E A J 会員によるアロマテラピーボランティア活動



植物の香りと手のぬくもり

月に一度、手、足、顔のアロマテラピートリートメントをしています。毎月待つていらっしゃる方がいて、細く長く続けることには意義があると信じて通っています。

トリーントメントを受けた方の反応は本当にさまざまです。認知症が進行していた方が精油の香りを感じ取った瞬間、表情を変え、せきを切ったように話し出すといったことがあります。また、トリーントメントを嫌がついた方がいざ受けてみると、安心感からか自分たらす力の大きさを感じ、嬉しく思います。

植物の香りと手のぬくもりが相まって、安心感へと導き心を解放していきます。世代が違っても言葉がなくても心が通じ合っているような感覚。そういった反応を目の当たりにすると、アロマテラピートリーントメントのもたらす力の大きさを感じ、嬉しく思います。

(都築 美郁子さん・愛知県)



人生の先輩に感謝しきりの日々 (都築さん)

高齢者施設

AEAJの機関誌で偶然、活動中だった高齢者施設のボランティアに欠員があることを知つて申し込みました。メンバー同士がAEAJ会員のため、「今日はこんな香りで、今日はこんなメニューで」と意思の疎通が早く、てきぱきと活動が進みます。

月に1回、アロマ加湿器で毎月違うブレンドの芳香浴をしながら、手浴やハンドトリートメントをしています。「今日はアロマの人たちが来る日だね」と、私たちが訪れるのを楽しみに待つてくださる施設のみ皆さんに励まされて続けています。アロマテラピーを自分の生活の一部として、資格や知識を役立てたいと考えていれば、自分がいるべき場所が自然に見つかると思います。

(島田圭子さん・東京都)



メンバーは皆、AE AJの会員で意思疎通も円滑 (島田さん)



アロマによって「心も身体も美しく」が私のモットー。施設中、笑い声が絶えないひと時です (三牧さん)

香りがもたらすもの



友人が病院併設の介護施設をオーブンさせることになり、ボランティア活動を始めました。季節に合わせた芳香をし、ロビーや廊下で手浴を行っています。

自宅を離れて介護施設で生活を送られる高齢の方や、年齢は若くても介護が必要な方が、ひと時でも笑顔になつたり、ぐっすり眠れたり、そんなお手伝いができるばと思っています。

普段は会話のできない方が、突然私の顔を見て、大きな声で「ありがとうございます」とおつしゃいました。香りと何かの記憶が結びついたのかかもしれません。皆さんの反応に、微力ながらお役に立つているのかな、と嬉しく励まされています。

アロマテラピー

地域の施設と保育園の子育てサポートで、乳幼児の母親向けに月1回、子育て支援を行っています。外へ出られる機会の少ないお母さんたちの、情報交換やリフレッシュの場として利用してもらえばと思つております。



ここではスプレーで芳香した部屋で、赤ちゃんとのふれあい遊びや、ハーブティーの提供をしています。時には一人ひとりにハンドトリートメントをして差し上げることもあります。肌と肌を接することでお互いの距離も近くなり、信頼関係も増すようです。帰る時のお母さんのニコニコ顔が嬉しいです。

(千葉ひろみさん・神奈川県)

子育て支援

子どもと一緒に子育て支援センターへ遊びに行つて、お母さんの多くが家事と育児で疲れていると知りました。

お母さんたちにリラックス＆リフレッシュしてもらえるように、ボランティアを始めました。アロマクラフトの製作や、ハーブティー、芳香



お母さんがリラックスすることで、子育てにもゆとりが生まれるのだと思います。子どもたちにもお母さんの手のぬくもりは伝わっているはず！(千葉さん)

疲れたお母さんたちのために

浴とハーブ入りホットパックでのリラックスタイムの提供などをしています。「いい香りに包まれてリラックスできました」という言葉も。笑顔になっているお母さんを見ると、ハーブや精油の癒しの力を実感し、私も嬉しくなります。

(正木栄美子さん・千葉県)



支援センターに集う方々と一緒にさまざま作製しているアロマクラフト。これは、除菌スプレーを作っている様子です(正木さん)

障がい者施設

帰り際の名残惜しそうな仕草

AEAJの機関誌に、知的障がい者通所施設のボランティア募集記事が出ていて、他の人にもアロマテラピーを経験してもらいたいと思い応募しました。週1回、ハンドトリートメントなどをしています。

この施設には、会話が難しい方もいらっしゃるので、トリートメント中は顔色や反応を見ながら施術しています。居眠りをしたりする方を見ると、「リラックスしていただけている」と実感します。活動を終えて帰るになると、泣くような仕草をして見送ってくれる方がいます。その姿を見て、「また来よう」と思うのです。

(谷口紀美代さん・東京都)



香りは、日常に彩りを与えてくれます(谷口さん)



施設スタッフの方の協力がなければ5年も続けられていません。感謝しています(佐々木さん)

(佐々木夫沙子さん・東京都)

デイサービス



私にとってアロマはなくてはならないもの。トリートメント中の会話も活動仲間との交流も今や欠かせません(中村さん)

(中村奈津子さん・福岡県)

アロマの力を実感 足浴で心の凝りもほぐしていただけたら

高齢の方には足浴が人気。巻き爪が痛む方が多く、足浴で柔らかくなつた足の爪を、施設のスタッフの方に切つてもらうのが心地よいようです。精油の入ったお湯に足をそつとつける時は、まるで温泉につかるかのように喜んでくださいます。私が皆さんのお話の聞き役にもなって、身体だけでなく心の凝りもほぐしていただければと感じています。

(佐々木夫沙子さん・東京都)



施設スタッフの方の協力がなければ5年も続けられていません。感謝しています(佐々木さん)

(佐々木夫沙子さん・東京都)

アロマの力を実感

芳香浴、ハンドトリートメント、ハーブティーを提供しています。皆さんとの会話や喜んでくださる顔を見ると、自分の気持ちが満たされていくことに気がつきます。スタッフの方々もアロマで癒されると言つてくださいり、香りがあると施設全体の雰囲気がまるで変わります。

(中村奈津子さん・福岡県)



香りは、日常に彩りを与えてくれます(谷口さん)

森のアロマ



香りをお持ち帰りいただくための、ウッドチップのサシェ。チップには、精油で爽やかな香りをつけています（時田さん）

森林浴とアロマテラピーが、現代人の癒しに

5年ほど前から間伐や自然観察会などの森林ボランティア活動をするようになりました。森林の中では呼吸するだけでもリフレッシュしますが、私は森林浴体験に参加してくださいた方に「ウッドチップのサシェ」を作つて持ち帰つてもらっています。

サシェにはヒノキや、レモンユーカリなどの精油をつけます。森林浴体験で癒された感覚を、サシェの香りが家に帰つても引き継いでくれるのです。

日常で森を見る機会がなくとも、サシェの香りを嗅ぐことで、森林浴での癒しの記憶が呼び起こされ、リラックスやリフレッシュすることができます。これが森林浴とアロマテラピーの相乗効果といつてもいいかも知れません。

（時田倫季子さん・神奈川県）



森の空気、小川のせせらぎ、木の葉の揺れる音、小鳥のさえずり、樹木のぬくもりなどで、心と身体がリラックスします（時田さん）

香りで日々の過ごし方も豊かに

5年ほど前からホスピス病棟でボランティア活動をしています。週1回のペースで香りを届けに伺っています。

トリートメント中に「いい気持ちです」「命が延びているよ」と言ってくださり、表情が和らぎ明るくなる方もいらっしゃいます。

香りは、いつもとは違った別の世界を感じさせてくれます。それはきっと私も受け手の方も同じ。ひと時の過ごし方に幅を持たせてくれる、それがアロマテラピーだと思います。

（樋渡和枝さん・兵庫県）



ホスピス

母の介護がきっかけで

ホスピス病棟で、アロマテラピーリートメントのボランティア活動を始めてもうすぐ3年。2週間に1回のペースで活動しています。きっかけは、母がホスピスでお世話になつた時に私の介護の中でアロマテラピートリートメントを一番喜んでくれたことでした。

他の患者さんも喜んでくれたり、気晴らしなつたりするのではないかと思い、AEA認定アロマセラピーストの資格を取得して活動を始めました。

アロマテラピーを通して患者さんやご家族の皆さんのお話を聞かせていただることを、とても嬉しく思っています。（小川朋子さん・徳島県）



香りで日々の過ごし方も豊かに

ホスピス病棟で、アロマテラピーリートメントのボランティア活動を始めてもうすぐ3年。2週間に1回のペースで活動しています。きっかけは、母がホスピスでお世話になつた時に私の介護の中でアロマテラピートリートメントを一番喜んでくれたことでした。

他の患者さんも喜んでくれたり、気晴らしなつたりするのではないかと思い、AEA認定アロマセラ

AEAJ ボランティア支援部会について

1999年、アロマテラピーの素晴らしさをひとりでも多くの方に体験していただき、社会的認知を高めたいとの思いで、会員有志が立ち上げたのがボランティア準備部会です。2000年、「ボランティア部会」として正式に発足し、地道にアロマテラピーボランティア活動を支援してまいりました。

時代の変遷に伴い、アロマテラピーは確実に社会に受け入れられてきました。アロマテラピーボランティアも年々注目を集め、施設からの問い合わせやボランティア勉強会への参加者も増加し、部会も次第に大きな役割を担うこととなりました。2009年にアロマテラピーボランティアを行う会員への支援という意味合いを込め「AEAJボランティア支援部会」と改名し現在に至ります。

しかし、アロマテラピーボランティアの伸展とともに、その危険性も常に頭においておかなくてはなりません。「人に触れる」ことは大変責任のともなう行為です。香りそのものが受け手の負担になることもあります。精油や植物油についてのみならず、心身についての十分な知識や見識、さらに経験が必要です。私たちは、資格に見合ったボランティア活動を行うように提唱しています。

正しい知識と技術があることに加え、何よりも大事なのは、受け手の方を尊重し、慎重にかつ最大の配慮をした上で「一緒に香りを楽しむ」ことではないでしょうか。心地よい時間を共有することはお互いの喜びになり、ボランティアを継続する大きな力になるはずです。

現代社会において、もはやボランティアは特別なことではありません。香りを通して心を満たし、お互いに分かちえるものを持つていることは素晴らしいことです。

私たちはこれからもアロマテラピーボランティアを行う会員の皆さまをさまざまなかたちで支援してまいります。

アロマテラピーボランティア活動の普及と支援

AEAJはアロマテラピーを通じての社会貢献を考え
会員の活動を広げていくためのきっかけとなるよう
ボランティア支援部会を設置し、以下の活動を展開しています。



● 勉強会の開催

AEAJ会員を対象に各地で
ボランティア勉強会を開催しています。
開催についての詳細は機関誌や
AEAJ公式サイトでお知らせしています。



<http://www.aromakankyo.or.jp>

● ボランティア活動支援制度

活動の継続が困難、あるいは
活動を拡張したいと考えている
AEAJ個人正会員の方に
材料費などの支援を行っています。
詳しい内容は、AEAJ公式サイトを
ご覧ください。

● アロマテラピーボランティア相談コーナー

AEAJ公式サイトの会員専用ページ内にて
アロマテラピーボランティアに関する相談や質問を受け付けています。
ご相談には、ボランティア支援部会のメンバーがお答えしています。

- はじめてのボランティア活動について
- ボランティア活動時の困りごと・悩みについて
- ボランティア仲間の募集



● 「アロマテラピーボランティア活動のすすめ」の発行

アロマテラピーボランティアについて
正しい知識の普及啓発や、活動を始めたと考えている方の
参考となるよう冊子を発行しています。
AEAJ公式サイトからダウンロードできますのでご利用ください。



アロマテラピーボランティアの講座

人と、香りと、環境と －AEAJについて－

公益社団法人 日本アロマ環境協会 (AEAJ)の母体は

1996年に設立された日本アロマテラピー協会。

2005年環境省所管の社団法人化を経て

2012年4月1日、公益法人として新たなスタートを切りました。

団体発足以来、アロマテラピーの健全な普及と発展に貢献することを
使命としてさまざまな活動を行ってきました。

アロマテラピーに関する調査・研究活動をはじめ
アロマテラピーアドバイザー、アロマテラピーインストラクター
アロマセラピストなどの

各種AEAJ認定資格や、アロマテラピー検定
環境カオリスタ検定試験の運営などの活動を通じて
アロマテラピーに関する正しい知識の普及啓発をはかるとともに
自然と共生していくことの大切さを伝えています。

また、非営利団体として香り豊かな環境を未来へつなぐための
社会貢献活動も積極的にすすめています。

アロマテラピーを活かしてできること
心地よい環境を守るためにできること
皆さまとともに、これからも考えてまいります。

AEAJ会員へのボランティア支援一覧

● ボランティア相談コーナー

www.aromakankyo.or.jp/membership/benefits/volunteer/

● ボランティア活動支援制度

www.aromakankyo.or.jp/aeaj/institution/volunteer_support/index.html

● 復興支援アロマテラピーボランティア活動支援制度

www.aromakankyo.or.jp/disaster_support/



公益社団法人 日本アロマ環境協会

www.aromakankyo.or.jp